

メガイアワビの種苗生産

(栽培漁業種苗生産事業)

森脇和也、曾田一志¹、石田健次、土川陽子²

中山 愛²、柳谷浩一²、富室孝仁²、小中大輔²

1. 研究目的

中間育成用種苗、放流用種苗および養殖用種苗として殻長8～15mmサイズ33万個の生産を目指して生産し、配布する。

2. 研究方法

(1) 平成21年度採卵分（中間育成～出荷）

中間育成は、屋外の10m水槽10～16基を用い、塩ビ製の黒色シェルターを1槽当たり22枚敷いた。飼育海水（生海水）の換水率は毎時1～2回転とした。遮光は4月中旬から開始し、朝～夕にかけて95%遮光幕で遮光した。餌料は、アワビ用配合餌料を週3回飽食給餌した。5月下旬まで動物性蛋白質を使用していない飼料を使用し、その後は動物性タンパク質入りの飼料を与えた。加えて、中間育成初期には生ワカメ、5月下旬以降は生アラメを補助的に給餌した。底掃除は一週間に3回全排水で行った。3月と5月に選別を行い、各生産回次の大型個体を残すようにした。出荷の約2～3日前に剥

離し、選別、計数（重量換算法）を行い、ホタテ貝殻に付着させ出荷した。

3. 研究結果

(1) 平成21年度採卵分

3月から5月にかけては、11℃～15℃と前年より1～2℃程度水温が低かったためか、前年度よりも摂餌量は減少した。水温が18℃台と前年に追いついた6月頃から摂餌量が上昇した。全体的に見て、中間育成開始から終了まで、大規模な摂餌不良は生じなかった。殻長は、前年度よりは緩やかだが順調に成長した。8mmサイズは、隠岐道後水産種苗センターへ平成22年4月に10万個、15mmサイズはJF浦郷支所へ平成22年7月に5万個の出荷を行った。

4. 研究成果

中間育成後、県内全域の沿岸に放流が行われる予定である。

¹ 隠岐支庁水産局島前出張所

² 島根県水産振興協会栽培漁業センター